

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4373101015		
法人名	社会福祉法人 洋香会		
事業所名	にしき園グループホーム(さくら棟)		
所在地	熊本県唐津郡錦町西70番地		
自己評価作成日	平成24年 6月 8日	評価結果市町村受理日	平成24年 7月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アクシス		
所在地	熊本県熊本市八幡9-6-51		
訪問調査日	平成24年6月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広大な敷地の中に2ユニットのグループホームとデイサービスが併設された環境で、グランドゴルフ場や菜園があり、近隣には梨園や桃園、敷地内には竹林等もあり季節感が味わえる立地となっている。デイサービスとのグランドゴルフ大会をはじめ、小学校の登校時の「おはよう」声掛けや小学校との交流会の中での認知症サポーター養成講座、えんがわ事業として地域の皆様との馴染み関係も取れている。今後グループホームにおいての終末ケアがどこまで出来るか目標にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広い敷地内には子供達のための遊具、グランドゴルフ場、多目的に使用できる建物などが整備されており、いつでも地域の方々に門戸を開放しています。そのことが、利用者を孤立させることなく、地域と繋がりがりながら暮らし続けられるゆえんだと思います。さらにもう一つは事業所が、小学校との交流会を持っている事です。事業所を訪れた小学生達は、認知症サポーター養成講座、福祉用具使用の実践、料理の3班に分かれ、利用者との交流を行っているそうです。“利用者には元気が・・・、子供達には教室では学ぶことができない貴重な体験”になると思われました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時の理念を利用者や職員、家族様の見やすい場所に掲示している。又方針や目標は、毎月の勉強会等で話し合いサービスに活かす様になっている。地域密着型として、地域のカラオケ教室や子供たちの遊ぶ場所に施設を開放している。又毎週月曜日の朝は、地域の子供たちの登校時に「おはよう」の声掛けを実施している。	事業所は、“私達は、地域とともに歩み「自然を愛し、地域を愛し、人を愛す」という理念をかかげ、見やすい場所に掲示している。理念の共有についても、毎月の勉強会の中で再確認するようにしている。また、その実践にも力を入れており、地域の方々や子供達にも施設の開放を行っている。毎週月曜日の朝には、登校中の子供達に「おはよう」の声掛けを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣への散歩、行事、祭り、買物等日常的に行っている。利用者様が散歩中、園庭に設置した遊具は利用者様と子供たちとのコミュニケーションの場所となっている。敷地内にあるグランドゴルフ場では定期的にデイサービスセンターの利用者様と勝敗を競う取り組みをしている。	この事業所には、デイサービスセンターも併設されており、また広い敷地内には、遊具やグランドゴルフ場、多目的に使用できる建物などもあり、それらはいつでも地域の方々や子供達に開放されています。年に2回はデイサービス利用者とのグランドゴルフ大会も行なわれているそうです。利用者が地域と繋がりがりながら、落ち着いた生活を送ることが出来る環境作りに取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年間を通して地域の小学校との交流会を行い、認知症ケアサポート養成講座を開き小学生に認知症の理解を得ている。地域住民の相談に対しては専門的知識での支援が出来る様に全員の職員がサービス向上委員会を立ち上げ勉強している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に行う会議には、各分野の委員様と利用者様、職員が2ヶ月間の生活の状況や困難事例を話し合いサービスに活かしている。	メンバーとして、区長、民生委員、消防団長、利用者の家族、地域包括職員、役場の福祉課長が出席している。事業所から利用者の生活状況、困難事例、また取り組みなどについて報告し、各分野からの意見を頂いている。意見は出来るだけ、サービスの向上につなげるよう取組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者は町の認知症サポーター運営委員として包括支援センターとは日頃から密に連絡を取り合っている。運営推進会議に於いては、常時参加して頂き色々なアドバイスをいただいている。	運営推進会議にも、福祉課長や地域包括支援センター職員も出席しており、また管理者は町が主催する認知症サポーター運営委員会にも名を連ねており、日頃から町との協力関係づくりに積極的に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束やリスクマネジメントを取り入れた勉強会を年間を通して実施している。施設入口の門扉や施設内の出入り口はすべて解放して夜勤者一人体制の時間帯だけを施錠している。日中は散歩や草花の手入れ等をされている。	身体拘束に関するマニュアルも備えており、合わせてリスクマネジメントも取り入れた勉強会を定期的実施している。また、近年はサービス向上委員会も立ち上げ、全職員のスキルアップにも力を入れて取り組んでいる。施錠については、防犯上の観点から、夜間のみ行なっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と職員は、高齢者虐待の具体的な事例を挙げながら、定期的に虐待防止等を勉強会に取り入れ徹底して防止に努めている。		

にしき園グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度について管理者は勉強会で随時資料を配布して共に勉強している。又実際にケースに当たり支援しているので、専門職の方と連携を取りながら意識を高めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約に関しては、二人の職員で説明不足が無い様に、時間をかけて家族が納得されるように説明をしている。特に医療や利用料金に関しては意思の確認を取り同意を得ている。改定時には文書でお知らせしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員の勉強会で利用者様の理美容の件が上がり、利用者様に意思を確認を取り職員の技でパーマをかけたところ家族様に好評で定期的実施している。面会時やサービス担当者会議時に耳を傾け、家族や利用者が何でも言えるような場を作っている。又、運営推進会議には利用者も参加し意見を述べられている。	運営推進会議や面会時、更にサービス担当者会議をいろいろな機会としてとらえ、忌憚のない意見や要望の収集に取り組んでいる。また、直接言いにくいことも考慮し、第三者苦情処理機関のポスターも見やすい場所に掲示している。	利用者や家族は、意見や要望はなかなか言いにくいものです。これからも謙虚に、利用者や家族が発言できる環境作りに取り組んで欲しいと思います。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、勉強会や業務に於いて意見や提案が出やすい雰囲気を作っており、出た意見や提案はできるだけ運営に反映できるようにしている。又年間を通して上半期下半期と人事考課などで時間をかけて話し合っている。	勉強会や日頃の業務の中で、意見や提案の出しやすい雰囲気作りに努めている。職員の技術を活かしたパーマや外食、温泉の利用なども、職員意見の反映として実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	DO-CAPでの半期ごとの自己実現Ⅱに関して必ずプラスの評価をしながら、次期の目標に繋げるようにしている。又退職者が出ない様に常にコミュニケーションの摂れる職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	サービス向上委員会を設置して事業所内での研修を勧めている。又専門分野の研修への参加や専門誌の購読等で職員のレベルアップを図っている。又各資格取得も奨励している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	G, H連絡協議会により連携を持ち新人教育、計画作成担当者の勉強会、管理者の交流を行って情報の交換を行いサービスの向上に努めている。疑問がある時は連絡を取り合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接調査や在宅での、担当ケアマネージャとの連携をえとりながら、本人の不安が少しでも解消出来るようにしている。担当職員は、毎月家族様宛にメッセージカードとGH便りを送付している。又サービス担当者会議に於いても反映している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時、家族やご本人の要望を出来るだけ受け止め安心して頂けるサービスを提供する。又、毎日の生活のなかでに於いて面会時やサービス担当者会議に於いても耳を傾けて利用者様、家族様の信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時の聞き取りを十分に行い、本人、家族にとって必要とされているサービスを最優先としてプラン作成に努めている。又家族様、本人様の変化が見られた時は、希望に添う様に柔軟な対応を取り小さな事でも相談を受けとめている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に生活の場である事を意識して、食材の買い出しや、同じ食事を一緒に作って食べる事で話題も多い。行事食などには、昔からの知恵を出して頂き共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各行事への参加の呼びかけや面会の促し等で利用者様は安心や満足がされている。面会時は、家族と利用者様と一緒に時間を作りお互いにゆっくり話されるように配慮している。職員は毎日の状況を詳しく説明している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のカラオケ教室の方やデイサービスの利用者様との馴染み関係を絶やすことなく、誰とでも気軽に話されている。買物の時など気軽に声をかけて頂いている。又本人の出身地区の行事参加もしている。	現在、趣味や習い事を続けている利用者はおられないが、事業所がデイサービスと併設していることで、昔馴染みの訪問も頻繁にあり、関係継続を支援することが出来ている。また、衣類等の買い物も昔からの行きつけの店を利用して、関係支援に努めている。	
21		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の、園庭の散歩中利用者様の車椅子を押してあげたり、手をつないで歩いたり利用者各々の性格を把握した上で関係を築き支え合えるように気配りをしている。独りの時間も大事にしている。		

にしき園グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたときは、見舞に行ったり洗濯物を取りに行ったりしている。他の施設に入所されても面会をしたり家族様と話しをしたりして、介護に関する相談は気軽に受け付けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランに添って希望や、意向を目標に掲げ取り組んでいる。又定期的なモニタリングなどで評価をしている。又日常生活に於いて本人様の思いを引き出す努力をしている。困難な場合には、ケアカンファレンスで検討したり、サービス担当者会議で家族様と一緒に検討している。又包括支援センターなどに相談したり観察を重視している。	日常生活の中で、利用者の思いや意向を引き出す努力を積み重ねている。例えば、利用者1対1で散歩しながら聞き出す努力をしたり、夜勤の時等にも1対1で真剣に話しをすると徐々にうち解け、心を開かれることがあるとのことである。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメント資料や家族の面会時の色々な話を情報としたり本人様との対話を情報として、本人に合った生活環境作りに努めている。又職員は統一した情報となる様に、記録での申し送りとしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月の体重測定や活動内容などで把握している。又日々の食事量のチェック表やバイタルチェック表等で把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員で観察する力をつけ勉強会でケアプランの検討を行っている。特に担当の意見は重視してケアプランに反映している。又、担当者会議に於いての家族の意見は取り入れている。	この事業所では職員の中に看護師も在籍しており、利用者が病院を受診する場合は必ず付き添い、専門家として症状の確認を行っている。ケアプランは、看護師、家族、職員全員の意見が反映された本人本位の介護計画になるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のミーティングや職員会議などで気付きなどを話し合い介護計画に反映している。介護計画の実践状況を介護支援経過へ記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスを利用し、電気治療や利用者間での交流を行っている。突発的な受診や本人様の希望の外食なども柔軟に実施している。理美容等も、本人に合った髪形や、髪染め、パーマ等支援している。		

にしき園グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での四季折々の行事参加や買物、地域の子供たちとの交流等を行っている。又登校時の声掛け運動等楽しんで出掛けられている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望を重視しており入所前の掛かり付け医の継続や近隣の医療機関との連携等安心した医療の提供をしている。又専門的機関の受診も家族と相談の上実施している。	本人や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。受診の際も看護師が付き添い、症状の確認を行っている。また、認知症、歯科、精神科、眼科、耳鼻科等の専門医の受診も家族と相談しながら支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師や併設のデイサービスの看護職や掛かり付け医の看護師などに相談しながら、心身状況の把握に努めている。必要時にはいつでも受診できる様な体制作りをしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に関しては、安心して治療される様に、早期退院できるよう掛かり付け医と連絡を取り家族と相談しながら進めている。掛かりつけの病院関係者とは協力関係が出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	開設して6年目になり終末期に向けて家族様との話し合いを行っている。利用者様のレベルも大分低下してきているが、職員のレベルの向上を図りながら家族様の意向に添うように地域の関係機関と充分な連携を取りながら進めていきたい。又併設のデイサービスとの協力体制も取れている。	今のところ、事業所としての看取りの実績はない。現状では、母体に特別養護老人ホームがあり、出来ればそちらへの転居を考えている。また事業所としては、職員のレベルアップも図りながら、ブロック会での研修や地域の関係機関との連携を深め、進める方向で検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し目に付く所に置いている。勉強会等に於いて訓練を実施している。又全職員の普通救命講習の受講の計画もしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎晩夜勤者と遅出により避難訓練」を実施して身体で覚える訓練をしている。又3ヶ月に一回は地域の消防署に協力を依頼し消防避難訓練を行っている。	事業所は町との協定で、地域の避難場所にも指定されており、3ヶ月に1回は消防署の指導のもと、消防避難訓練を実施している。また緊急の場合を考え、手順を体に覚えこませる為に、夜勤者と遅出の職員は毎晩、避難の手順の確認を行っている。	水や食料の備蓄等についても、今後の課題として取り組んで欲しいと思います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	必要以上の介護をしない様に心掛け、特に入浴時や排泄介助時のマニュアルは全職員で統一している。日々の会話に生活歴等充分把握しながら人生の先輩としての声掛けをするように心掛けている。	接遇に関するマニュアルを整備している。また、全職員のスキルアップをめざしたサービス向上委員会でも毎月、勉強会を行っており、日々の会話や言葉掛けに十分注意をはらっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者の声に耳を傾け、強要することなく職員から選択し易いような声掛けをして自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大事にして一日を穏やかに過ごされる様に支援している。又自分の趣味活動は、進んでして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や家族の希望を受け止めて、髪染めや散髪など又、衣類等の買物は職員と一緒に出かけその都度受け入れている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	母体の栄養士が作成した献立を工夫して畑の野菜をふんだんに使い、利用者の能力に応じて野菜の切り込み、下拵え、盛り付け、下膳などを楽しく活動としてお願いしている。又漬物漬けや梅漬けなどは利用者へ教えて頂いている。各棟其々に考えたメニューを調理している。	事業所の敷地内には季節の野菜が植えられており、利用者の方々も収穫を楽しみにしておられるとの事である。基本的には、自家製の食材を出来るだけ使用し、そこに利用者の能力に応じて、野菜の切り込みや下拵え、盛り付けと参加していただき、楽しい食事ができることを目標にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体の栄養士が作成した献立表を基にしながらカロリーが偏らないように、各利用者が好まれるような献立を提供して、職員も一緒に食べている。ケース記録に食事摂取量や水分摂取量の記録を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っており口臭のある方には、液体歯磨きでの清潔保持をしている。個々の状態に応じてケアを行っている。お茶で磨いて貰う利用者もおられる。又必要時には協力医の歯科医院の往診も受け入れている。		

にしき園グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自の排泄状況を記録しパターンをつかみ認知度やADLに応じて声掛けなどの介助を行っている。又介助の方に関しては、下拭きタオルを暖めて清潔を保っている。	現在、昼間におむつ着用の利用者はおられない。夜間のみ着用の方はおられる。利用者一人一人の排泄チェック表をつけており、その中からパターンを見つけ、またおなかを押さえたり、キョロキョロするなどの行動の特徴をつかみ、声掛けなどの支援を行ない、トイレでの排泄を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食時に汁物を付けいつでも自由に飲んで頂けるように準備をしている。お茶の時間を3回設け水分補給に努めべんぴの解消に努めている。毎朝野菜ジュースを提供したり野菜類を多く取り入れた献立にしている。折あるごとに便秘から来る影響を職員に話している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	隔日に入浴して頂いているが本人が希望される時は、その都度入って頂き時間の制限はしていない。お風呂好きな利用者にはゆっくりと入浴していただいている。	入浴支援は、2日に1回の割合で行なっている。時間については、午前も午後も行なっているが、午後は4時ぐらいを目途に支援している。職員が声掛けして拒まれる場合など、利用者に声掛けしてもらって、スムーズに行く場合もある。また、冬場等は足湯も実施しており、気持ち良く眠りにつく事が出来ると好評である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたい時は自由に休んで頂いている。訴えできない方に対しては身体状況や年齢を考慮してその都度休んで頂いている。夜間は季節や本人の状況に応じて電気毛布やあんかなどを利用して安眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日各人の薬の説明書と薬を見比べて準備する事で把握が出来ている。説明書は一冊のファイルにまとめて閲覧出来る様にしている。変更時には間違いの無いようにミーティングや申し送り簿で周知徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	デイサービスとの交流や地域の子供たちとの交流で楽しみや生き甲斐を感じて頂いている。又其々の趣味や能力を活動に取り入れている。習字や花活け等は四季折々の活動としている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	園庭や近隣への散歩や利用者の希望に応じて外食や買物、温泉等に出かけて頂いている。家族の協力を得て命日のお参りなど外出されている。月に一回はバスハイク等計画している。又敬老会は地元の方と交流を図る為に出かけられている方もいる。	事業所では外出支援の一つの柱として、年間を通して活動計画を作成している。またもう一つの柱として、天気がいい日には、園庭や近隣への散歩にも取り組んでいる。その他、利用者の能力や希望にもよるが、外食や買い物、温泉または墓参りなど、家族の協力も得ながら支援している。	



にしき園グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日々の生活に於いては、職員で管理しているが、買物や外食のときは自分で支払っていただいている。時々移動販売に於いては買物をされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀はがきや暑中見舞いなど書いて頂いている。電話のやりとりは自由に行っている。携帯電話を所持されている方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所やトイレは入りやすいスペースで明るくしている。壁面は季節の花や壁面製作で空間に季節感を表す製作をしている。天気が良い時は、窓を開放して外気を取り込み、食事時には音楽を流し穏やかな雰囲気を出している。浴室は滑らない様に工夫している。バルコニーや休憩所でのお茶やおやつを楽しまれている。	利用者がくつろがれる居間は、開放的な吹き抜け構造に設計されており、そこには明かり取り窓も組み込まれ、程良い明るさで、利用者の穏やかな落ち着いた風景がありました。また壁面には書道等の利用者の作品や折り紙による干支等の壁面製作も施され、居心地良く過ごせる工夫がありました。天気がいい日には、バルコニーや休憩所でのお茶が何よりの楽しみだそうです。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	バルコニーにソファを置いたり、休憩所などで過ごされている。談話室を利用される事もある。本人様の希望で自室に呼んで馴染みの方とお茶を飲まれることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や使い慣れたダンス、ソファ、マッサージ器など持ち込まれ自分の家と想像していただける居室作りを工夫している。又お位牌を持って来られる方もあり毎日佛飯を挙げてお参りされている。	ベッドは事業所で備え付けられている。寝具や収納家具、また調度品等はそれぞれの利用者で対応されている。使い慣れた物や好みの物を活かして、居心地よく過ごせる工夫をしている。部屋を見せてもらおうと、位牌をお持ちの利用者もおられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の位置は本人の能力を考慮している。トイレには赤い花お風呂場には暖簾をつけ目印にしている。台所は入りやすいように工夫をしている。園庭は車椅子でも移動できるように散歩道を作っている。		